

# 小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- 2 一問一答方式

質問件名 学ぶ機会の喪失をできる限り減らすために

## 質問要旨

先の 9 月定例会において、自閉症・情緒障害特別支援学級（情緒固定級）の設置に向けた請願が採択された。その後の市教育委員会定例会においても早期設置を求める意見が出ており、市教育委員会としてはすでに尽力いただいているものと想像するが、慎重に進めながらも、できるだけ早い対応をお願いしたい。

特に、通常の学級でサポートを受けながら学ぶことが困難な子どもたちにとって、情緒固定級は学びの場として、ひとつの大きな選択肢になるであろう。しかし、そうした新しい学びの場ができるまでの間も、困難を抱えた子ども達の時間は刻一刻と過ぎている。不登校の子どもも含め、そうした子ども達の、学びの機会損失をできる限り減らす手立ても同時に進めなければならない。

また、本年 6 月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の一部を改正する法律」が公布され、事業者による合理的配慮が努力義務から義務へと改められた。さらに、障害を理由とする差別を解消するための支援措置の強化も打ち出された。市として、合理的配慮の徹底に向けた取り組みを、これまで以上に加速する必要がある。

なお、合理的配慮の提供が保障されないことは、教育の機会が保障されないことと同義である。

市教育委員会には、先進事例の研究やその迅速な導入を含め、子ども達の学ぶ機会の喪失をできる限りゼロに近づけるため、新しいことにも果敢に挑戦していただきたく、質問する。

1. 合理的配慮の徹底につながる可能性もある「障害者差別解消支援地域協議会」の検討状況は。
2. 「こだいら これだけは」の活用状況は。
3. 「こだいら これだけは」に合理的配慮の具体的事項を載せ、学校間で対応の共通化を推進してはどうか。たとえば、プリントをデータでもらえるようにする、ルビをふる、フォントサイズで配慮する、また、プリントの見出しとして、教科名、日時、課題かまとめか、いつの授業に持ってくるか、といったことを含めるなどを決め、大枠で守ってもらうようにするなど。
4. 東京学芸大学附属小金井小学校の、保健室登校の児童が各教室の授業にオンライン参加できる取り組みを小平市も行ってはどうか。
5. 狛江市立狛江第三小学校の、特別支援学級にしながら通常学級の授業にオンライン参加できる取り組みを小平市も行ってはどうか。
6. 狛江市立の小学校の、一斉休校後に学校に来られなくなった子の自宅と教室をオンラインでつなぎ授業に参加し出席が認められるという取り組みを小平市も行ってはどうか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 3 年 11 月 12 日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 安竹 洋平

受付番号【     】
